（第三種郵便物認可）消費税込み定価１ヶ月3,000円・１部120円　日曜休刊

マイ ウエイ my way

教えること

南山大学学長　ミカエル・カルマノ　29

教室の中で〝戦い〟繰り返す

大学の専任教員になって、宗教家教育法や一般教養の宗教科目以外に、学科の専門科目として教育内容方法論や比較教育学等、教職員免許の科目でありながら、どちらかというと理論に重きを置いた授業を受け持った。しかし、現場を知らない理論家である私によいチャンスが回ってきた。愛知県が交付してくれた仮免許で、1988年から3年間、大学教員との兼任で、中学校、高等学校で教える（共学）であった。この国際部は1993年に独立し、豊田の南山国際中学校・高等学校となったが、当初から「ここは日本じゃない」ことになったのである。私立学校では道徳の時間の代わりに宗教という授業を置くことができ、私が担当したのもこの科目であった。

カルマノ・ゼミの学生と一緒に東山動物園で

私が教えることになった学校は1981年に設置された、帰国子女を対象とする南山中学校・高等学校の「国際部」替えた、ということがあった。このような生徒を前にしての授業で、私はかなり苦労した。ある時、チョークを投げても静かにならないので、水鉄砲を持っていった。すると、生徒に「先生、水を入れないと意味がないよ！」と言われたのである。

ハプニングが多い3年間であったが、教育について色々考えさせられる貴重な経験となった。一つは「教えること」について。自分が大事だと信じていることを伝えるために生徒の注目を引く技があれば便利であろうが、技術と専門知識とを持ち合わせるだけで「教える」ことになるのか、という疑問も沸いてきた。もう一つは自分自身や生徒・学生への認識について。「帰国子女」「外人」「カルマノ・ゼミの卒業生」等のラベルや注意書き（「えさを与えないで下さい」）によって、円満な授業運営に欠かせないルールを守らせる必要はあろうが、これはやはり学校教育特有の環境である。イメージは誤解を招くかもしれないし、何より、自分、そして学生は「教室」という檻の中にいることを忘れてはならないのである。